アワプラジオ通信【2015 年 5 月号】

■発行元　アワプラジオ クリエイティブ　■102-0084 東京都千代田区二番町 5-2 麹町駅プラザ 901
■E-Mail:awapuradio@gmail.com　■TEL:03-6868-5129　■Web: http://awapuradio.com/

インタビューシリーズ

仲間の半生に静かに耳を傾ける 90 分をつくる活動

マイヒストリーの会　幹事　深川 薫さんに聞く

1978 年和歌山県で生まれ、京都で育つ。会社員として働きながら、月 4～5 回のペースでマイヒストリーの会の活動を行っている。高校時代に出会った村上春樹の小説が好きな“ハルキスト”。(左が深川さん、右はアワプラジオの西澤尚美さん)。

■マイヒストリーの会ブログ
http://ameblo.jp/my-history-community/

――マイヒストリーの会について教えてください。

一人の人が自分の半生を 90 分､ただ語ってもらう、聴き手はただ聴くだけというシンプルな活動です。語り手が安心して話せるように 3 つほどルールを設けています。１つはプライバシーを守る、2 つめはケータイ、スマホは見ないということ。3 つめに質問、意見はしないということです。

1 つめのプライバシーを守るということは当然のことですよね。語ってもらう内容がプライバシーの塊みたいなものですから、参加者（聴き手）の方にはそれはネット上などには書かないでくださいよと最初にお願いしています。改めて言うことではないかもしれませんが、言うことで語り手の方が安心するということはあります。

ケータイ、スマホは見ないということですが、やっぱり自分が話しているときにケータイとかスマホを見られるととても残念な気持ちになるので、語り手に気持ちよく語ってもらうために、語っている最中には見ないでくださいねというお願いをしています。

質問、意見はしないということですが、語り手に気持ちよく語ってもらうということもありますが、話の流れを切らない、逸らせないというために設けているルールです。質問については私も“質問の効用”ということについて知ってはいるのですが、やはり興味本位で「何であんな人と結婚したの？」などと訊いてしまう人も中にはいらっしゃるでしょうし（笑)、みんなの前でそんなことを訊かれると答えざるを得ないという雰囲気になってしまいますよね。そんな思いを語り手にはさせたくないと考えて、いっそのこと質問や意見は無しにしてくださいということにしています。

始めた頃、聴き手の方も感動してブログに書いてしまうというようなことが一度だけありまして。これではご本人が特定できてしまいますので、文章を変えるか削除していただけませんかとお願いしたことがあります。

――いつごろからどんなきっかけで始めたのですか。

始めて約 1 年になります。私はもともと聞き書きと言って、お年寄りの話を聴いて文章に起こすボランティアをやっていまして、誰かの人生を聴くということが好きな素地はあったように思います。でもそこで主にうかがっていたのは、戦争を体験してこられた方のお話しだったので、それより若い人の話を聴いたって激動の時代を経験したわけでもないですし､面白くないのではないかなと思っていました。

ところが以前、素人演劇の舞台に出させていただく機会があって練習をしていたのですが、そのときの仲間とおたがいの夢を語り合おうよという話になりました。そこで仲間の一人が自分の夢を語る前提

として自分の半生を語ってくれました。

それがとても衝撃的なものでして。週に一回くらいのペースで会う間柄でしたから、その人となりは知っていたつもりだったのですが、離婚や大病を患った経験など思いもよらなかった事実が次々と話されまして。自分はこの仲間のことを何も知らなかったのだなと思いました。このとき、他のメンバーのことも知りたいなと思って始めたのがマイヒストリーの会です。

――語り手と聴き手、それぞれの反応はいかがですか。

自分が人の話を聴きたいという興味本位で始めた活動ですが、人前で 90 分も自分の半生を話す機会というのはなかなかないのではないかと思います。語り手としてはこんなことを言って他の人からどう思われるかなという気持ちがあるでしょう。

大勢の前で自分の人生を語ることはとても勇気がいります。しかし「話す」というのは「手放す」という感覚に似ており、勇気を持って一歩踏み出すことで、語り手の方からは自分の抱えていたものを置いてくることができたということを言ってくれた語り手の方は多いですね。

そして聴き手の側も、勇気を持ってさらけ出してくれたことに対し感謝や愛おしさが生まれ、会場全体に一体感が広がりますね。「自分にそれを言ってくれてありがとう」みたいな感じで。これは自分が全く思ってもみなかった活動の効果でしたね。

語っていただく話の中には病気や離婚など湿っぽい内容も多いですが、それでも終了後に温かい空気になっているのは、最初にお話しした 3 つのルールの効果かなと思います。

――今後の展開について考えていることがあればお願いします。またマイヒストリーの会を実際に開いてみたいという方はどうしたらいいでしょうか。

質問はしないというルールを設けていますが、質問の効果についてもいろいろな本などを読んで理解しています。せっかく語っていただくのですから、今後のテーマとして語り手の方に新しい視点に気付いてもらえる質問ができたらいいなということは考えています。

もう一つはマイヒストリーの会として自分の半生を語ってもらっていますが、その派生として“マイワークの会”や“マイファミリーの会”などもやってみたら面白いのではないかと思っています。

マイヒストリーの会というのはメンバーを固定した「会」そのものがあるわけではなく、基本的には私が一人でさまざまなコミュニティの中で開催しています。ブログや Facebook がありますので、そこからメッセージをいただければ進行の仕方などをお伝えできるかと思います。（まとめ：井上舞香）

※この記事の基となった番組音声はこちらから

http://awapuradio.com/awapuradio/tokyoloveletter/

Abe's VIEW　Vol.6　「数字の因縁」　あべこうー

私の誕生日は 1 月 27 日です。そして二人兄妹である妹は 7 月 12 日。何かお気付きでしょうか。私の誕生日“127”を並べ替えると妹の誕生日“712”になります。それから、昨年末に生まれた妹の第一子は 12 月 16 日。これを 12 月（1＋6 日）とすると 12 月 7 日で 12 と 7 を入れ替えると 7 月 12 日になるのです。ちなみに母は 6 月 27 日で、私と 27 が同じです。

人にはそれぞれに単なる偶然では説明のつかない縁の深い数字、自分が背負っている数字というものがあるように感じます。私が以前勉強したことのある占いも生年月日から『中心の星』という、文字どおりその人にとって最も中心となる数字を割り出し、そこから周りの星（数字）を見ていくというものです。

それぞれの数字には固有の意味があります。ずばり 7 なら 7 という数字の意味はもちろん、7、17、27……などの 7 系列の数字が持つ傾向など。自動車のナンバープレートの数字から、ご先祖様に守られる、なぜか故障が多いなど、その自動車の“運気”が見られてしまったりもします。

私はよく自分で好きな数字の組み合わせを選ぶ『ナンバーズ』などの宝くじを買います。基本的に一回につき一口（200 円分）しか買わないので健全なものです。もう 10 年くらい買っていますが、こればかりは占いを駆使してもなかなか当たりません。それでも過去に 6 万円と 3 万円を当てました。買い続けていれば、人生最後の日の前日くらいには大当たりが出るかもしれませんね。

本の紹介

半落ち（2005 年 9 月）

横山秀夫著・講談社文庫・637 円

この作品と出会ったのは映画の方が先だった。タダ券をもらったからという理由だけで観に行った。予備知識のないまま映画館へ出掛け、帰りには目を真っ赤に腫らして書店へ駆け込んだ。原作もまた素晴らしかった。人生で一番泣いた本だ。何度も読んだから表紙はボロボロだが、忙しくて心が疲れているときには今でも不思議と手に取ってしまう。

テーマは重い。現職警察官がアルツハイマー病の妻を殺し自首するのだが犯行後 2 日間の空白については頑として話さない。完落ちではなく半落ち。その全ての原因は息子を白血病で失ったからであり、主人公・梶総一郎を襲い続けた不幸は救いようのないほど心を重くする。だがそうまでしてなぜ彼は生き続けるのか。その理由がラストシーンで解明される。

物語は梶事件にまつわる人々の視点から描かれている。各人が様々な事情を抱えながら事件に関わりその合間に交わされる言葉だけが、梶という男を知る手掛かりなのだ。この描かれ方も面白いと思う。単に不幸な男の台詞で語られる物語ならば平凡な小説で終わっただろうし、主人公の感情に寄り添うこともできなかっただろう。

映画の中で妻の姉役の樹木希林が言う台詞がいつまでも心に残った。「私は妹を殺してあげられなかった」…この台詞に梶という男の性質が凝縮されている。（浅香友里）

日出る国の工場（1990 年 3 月）

村上春樹・安西水丸著

新潮文庫・767 円

『ノルウェイの森』『1Q84』で有名な小説家の村上春樹が取材した工場に関するエッセイである。工場というタイトルがついているがそれが指し示すものはより広く、何かが作られていくまたは行われていくプロセスを示す。

例えば結婚式の計画をどうやって組んでいくかそのプロセスを、結婚間近のカップルを仮想して小説風味で説明していく。牧場でどのように畜産物が生産されていくか、および牧場の光景を小岩井牧場の取材をもとに述べていく。徹底的に管理されて優秀な家畜のみを選別していくさまは経済活動における工場の厳しさを痛感させ、牧歌的なイメージを払拭する。また服飾ブランド「コムデ・デ・ギャルソン」の仕立てと裏話も収録する。

村上春樹と共同の仕事をした安西水丸によるイラストによって彼らが手掛けた他のエッセイ本と同じような空気感を醸し出している。文庫本であり軽く読める本だが、商品がいかなる工程を経て社会で売り出されていくのか、裏方の仕事が見えて面白い。

1990 年の出版だが今でも参考になることは多いだろう。商品が消費者に届くまでの行程はともすれば見えにくく、工場はあたかも「ブラックボックス」となっているがその中身を見せてくれる大人の工場見学。

（内藤千尋）

40 代、職業・ロックミュージシャン（2013 年 4 月）　大槻ケンヂ著・アスキー新書・905 円

一生涯、同じ仕事をしながら食べていける人というのはいったいどれくらいいるのだろうかと思う。そうした人生を特別に望んでいるわけではないにせよ、それを苦痛だとも感じないし、外的な抑圧（リストラや所属業界の衰退など）によってその立場を奪われない人生というのは幸せではないか。

そんな中でも不安定要因が多いのは人気商売とか水商売などと言われる業種だろう。売れていて調子のよいときはいいけれど、そうでないときは厳しい。そうした人たちの能力というのはだいたい特殊で、あまり一般企業などに就職して直接活かせるものも少なそうだ。

本書は 80 年代から活躍するミュージシャンの大槻ケンヂさんによる週刊アスキーの連載記事で、多くの同じ時代に活躍したミュージシャンとの対談・インタビューを収録したものだ。素人の感覚だと一度売れて有名になれば、余程ではない限り食いはぐれることはないだろう考えてしまいがち。だが来年 40 歳になる筆者が中学生などの頃に人気のあった“あのミュージシャンたち”が、さまざまな事情からバイトをしたり、一度は音楽を離れて別の生き方を模索したりといった話には驚かされる。

筆者も 25 年間、音楽活動を続けているが本書を読んでこんなにかつて売れた人でさえ、活動を継続するために苦労しているのだと知り勇気を与えられた。現在、品切れのようだが著者の『サブカルで食う 就職せず好きなことだけやって生きていく方法』（白夜書房）もおすすめ。（あべこうー）

インターネットラジオ アワプラジオ

■東京ラブレター（毎週木曜日・21：00～21：30）

首都圏で活動するＮＰＯやＮＧＯ、市民グループや個人の方を紹介する番組です。

●5 月のオンエア【7 日、14 日、21 日、28 日】

「月刊フリーペーパーに書評を執筆するボランティア活動」

アワプラジオ通信　記事執筆者　浅香友里さん、内藤千尋さんに聞く

ナビゲーター：あべこう一、高木祥衣

●番組の聴き方

「サイマルラジオ」（http://www.simulradio.jp/）にアクセス→「近畿」から「ＦＭわぃわぃ」を選択

スマホや ipad からはアプリ「Tuneln Radio」をダウンロード。「FMYY」を選択してお聴きください。

●東京ラブレターのページ（過去の放送が聴けます）

http://awapuradio.com/awapuradio/tokyoloveletter/

■ラジオドラマ『河童の水墨画』

現在収録中。どうぞお楽しみに！

●番組公式サイト

http://kappa-elegy.jimdo.com/

あべこうーの音楽活動

■2015.5.6（水・休）ダイニング&ミュージック スムルトロン（東京・下北沢）
波瀾万丈カフェ『あべこうートーク&ライブ』

場所：ダイニング&ミュージック スムルトロン
（小田急線・京王井の頭線『下北沢駅』西口 5 分）
予約/当日：¥2,500/¥3,000（1Drink 付）
●詳細　http://awapuradio.com/haranbanjoucafe/

■2015.6.29（月）下北沢 LOFT（東京）

場所：下北沢 LOFT
（京王井の頭線・小田急線「下北沢駅」南口 5 分）
18：30 開場／19：00 開演
チャージ：1500 円（ワンドリンク付き）

※出演時間等の詳細は未定です。ウェブ等でご確認ください。

■あべこうーの CD アルバム

夏に消えていく
（2013 年作品・1500 円）

1．夏に消えていく
2．君と僕と冷えたコーラ
3．イニシャル 2013
4．雷 Dance！
～雨の夜のサーカス～
5．タイムカプセル

東京実験（2012 年作品・2000 円）

1．いろりカフェー
2．悲しくもおだやかな世界
3．Change
4．イニシャル
5．無題ドキュメント
6．風のドラマ
7．雷の下で雨粒に撃たれ

●詳細はこちら　http://k-abe.jimdo.com/shop/

■CD-R 盤『HOME&STUDIO RECORDING DEMO ARCHIVE SERIES』

1997～2003 年頃にかけて収録された貴重なデモ音源を発掘。500 円でライブ会場のみの販売となります。

1．Rock Band（アコギ Ver）
2．純情を遠く運び去ったものたち
3．Hello Goodbye だ…
4．無自覚なビート
5．ぶんぶんぶん
6．Every day I Wake Up
7．似顔絵
8．形見
9．風のドラマ　10. Change　11. 水のように透明な愛がいい　12. 悲しきメリーゴーランド　13. いろりカフェー　14. Rock Band（バンド Ver）　15. あおはる

「アワプラジオ通信」を毎月あなたの家のポストへ！ あべこうーファンクラブ“Oasis”会員募集

■お申し込みの上、下記の口座へ年会費をご入金ください。
【入会金 0 円　年会費 4200 円】

【郵便振替】
郵便振替口座 15530-3969671
名義　阿部浩一

【銀行振込】
中央労働金庫　本店営業部
普通　3113628
名義　アワプラジオ 事務局長 阿部浩一

三菱東京 UFJ 銀行　インターネット支店
普通　3772395
名義　阿部浩一

申し込み（お名前とご住所をお書きください）・お問い合わせ　awapuradio@gmail.com　03-6868-5129（担当：阿部）

編集後記

寒暖の差が激しかった 4 月の東京。散りかけの桜に降る雪というのも不思議な光景ではありました。上旬には故郷の山口へ帰ってきましたが、わが故郷、やはり魚が美味いなぁとしみじみ思いました。加工品もすばらしくて、『宇部かま』というところのかまぼこの刺身“かまさし”はもう最高です。（阿部浩一）

すべてのお問い合わせ　awapuradio@gmail.com/090-6833-1491（阿部）